

逗子市郷土資料館だより

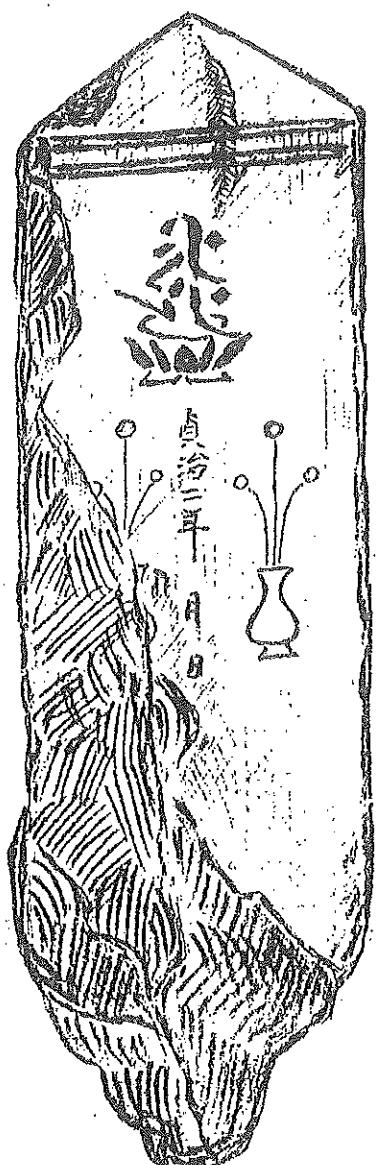
逗子市郷土資料館は昭和59年の市制施行30周年記念事業として設置した蘆花記念公園内的一角にあり、逗子の歴史（考古）や民俗、ゆかりの文学などの資料を収集展示し、広く人々に公開して、郷土を学んでいただくために開設しました。開設から早いもので8年になり、収蔵品も充実してきましたので、その収蔵品を順次解説した郷土資料館だよりを発行し、皆さんのが郷土史研究の一助になればと考えております。どうぞご期待ください。

小平寺のいた板碑
(阿弥陀一尊の子)

本館の中世資料の中に板碑が展示されています。
碑面を詳しく調べるための拓本や原材料の秩父青石
(緑泥片岩) もならべられていますからよく見比べて
ください。緑泥片岩は板のようにうすくはがれ易いの
で板碑の材料に選ばれたものと思われます。

板碑は鎌倉時代になって現われ始め南北朝の頃から室町時代にかけてさかんに作られました。仏教の浄土信仰や、来世思想をもとにして死後の世界でも極楽へ行けるようにと願って供養するためにたてられたと考えられています。

頂部が山型になっていることと、その下に二本の溝が刻まれているのが板碑の特徴です。碑面の中央部には、ハスの花（蓮座）とその上に安座して西方極楽浄土で永遠の救いをする阿弥陀如来を、キリークという梵字で表したもの（種子）を薬研彫（V字型に彫りくぼめる方法）にしてあります。

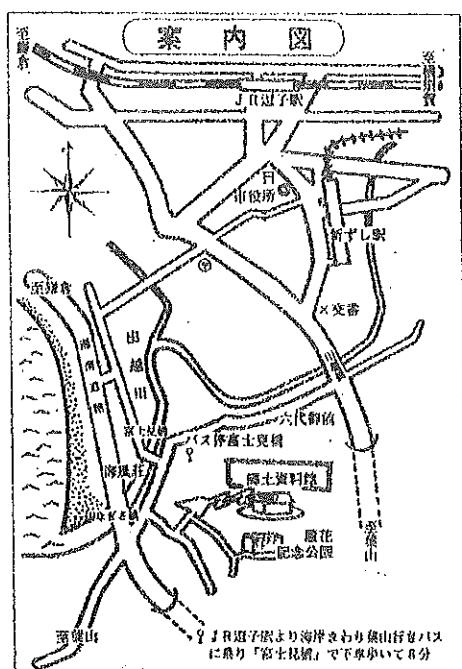


蓮座の下部中央には、造立した年号（紀年銘）を刻み、その両わきにハスの花を
いれた花びん（華瓶）を配しています。更に下方には、願文や供養者名などが刻
まれますが、この板碑の場合は風化がひどくて、銘文があったのかもともと無かつ
たのかはわかりません。

この板碑の紀年銘は、貞治二年□月□日となっています。西暦1363年のこと
で、この年は鎌倉幕府が滅亡した年（1333）や建武の中興（1334）から約
30年目、また貞治二年から約30年後の1392年に南朝と北朝は合一されます。
この60年間は日本中が南朝方と北朝方に別れて争った時代でした。碑はこの時代
の中頃に作られたのです。

小坪にいた有力者が戦乱の世に、一族の後生安樂を願って供養したものでしょう。
この有力者がどういう人であったかは、銘文が無いために判りません。ただし貞治
二年は北朝方の人達が使った年号であり、南朝方ではこの年を正平18年といっ
ていますから、貞治の年号を刻んだこの有力者の所属をうかがうことが出来ます。

小坪寺の墓地にたっていたのを本堂内に保管したことですが、この地には
以前から報身院と香藏寺という二つの浄土宗の寺が隣接していたのが、明治40年
(1907) 12月26日夜の火災で両寺とも焼失してしましい、その後香藏寺の
あとに建てられたのが小坪寺ですから、この板碑が元はどの寺に由来するものであるか、あるいはこの辺りに多いやぐら内にあったものが後に五輪塔などと共に外へ
出されたものか等は、判っておりません。



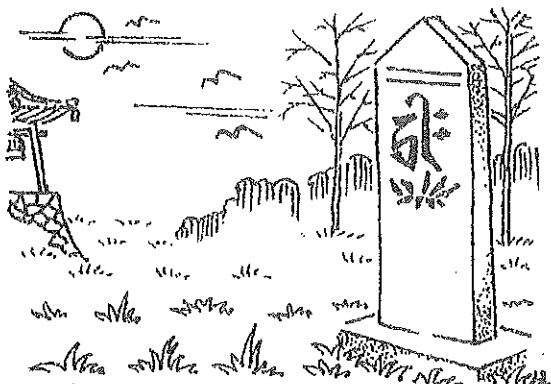
開館時間

・午前9時から午後4時まで

休館日

・毎曜日(月曜日が祝日にあたる場合はその翌日)

入館料 ①大人 100円 小人(小・中学生) 50円



1992年(平成4年)11月1日発行
逗子市郷土資料館だより

N.O. 1

編集発行者 逗子市郷土資料館
逗子市横山8丁目2275番

電話 0468-73-1741

© 逗子市教育委員会 1992